

神話『ブルーポールズ』 第4巻 (ルガルバンダの巻)

向殿 充浩

【まえがき】

神話『ブルーポールズ』は当初、3巻構成の構想で書き始めた作品であり、第3巻をもって完結したはずでした。しかし、約10年かけて第3巻までほぼ形を整えた頃、心の中にくすぶっていたのは、これですべてだろうか、という思いでした。その思いは、心の中のどこかにわだかまっており、何度か、続巻を書こうかと思いつち、少しだけ書きかけたりしたのですが、なかなか筆が進みませんでした。そんな時期が2～3年あったように思います。

この第4巻を本格的に書き始めたのは、2005～2006年頃だったと思います。第4巻では、創造という行為から離れて、神々が勢力争いを行うという世界を描いています。

【あらすじ】

第3巻において、ヴァーサヴァによって創造された世界がユビュのタンカーラによって帰滅し、神々の宇宙は、パキゼーの聖なる悟りに基づく平安に覆われていたが、ある日、その静寂が破られ、ルガルバンダが目を覚まして復活する。

ルガルバンダは、神々の新しい世界を築くことを宣言し、この声に呼び起こされるように、ムチャリンダ、イムテーベ、ヤンバー、シュリーなどが次々に立ち上がり、かつてのナユタ陣営の神々も独立し、群雄割拠の世界となる。

そのような世界の中で、ナユタとユビュは静観を保っているが、世界では神々の勢力争いが激しさを増す。シュリーはプシュパギリに勝って部将として取り込み、イムテーベに敗れたカーシャパはルガルバンダの部将になるなど、信義ではなく、利に基づく合従連衡が進んでゆく。中でも、ルガルバンダは、ヤンバー、ルドラ、カーシャパを抱え、カーシャパが編み出した騎馬軍団によって破竹の勢いで勢力を広げる。ルガルバンダは、ムチャリンダを倒し、さらにはシュリーを倒し、イムテーベを懐柔することで覇権を確立する。

ルガルバンダは世界統一のために、ナユタとユビュを取り込もうとするが、ふたりが臣従しないため、ナユタ征伐の軍を起こす。一方、ルガルバンダ帝国において国父となったイムテーベは形だけの敬意による臣従に不満を抱き、ルガルバンダから離反して、ナユタと連合を組んで戦う。しかし、決戦では、ルガルバンダが勝利し、イムテーベは倒される。

ナユタは、戦場から逃れて再起を期すが、ウダヤ師の勧めにより、森に棲むバラドゥーラ仙神を訪ねる。ナユタはバラドゥーラ仙神の元で教えを請い、さらに、森のウパシーヴァ仙神、エシューナ仙神、アシユタバ仙神を訪ねて教えを請う。その後、森を出たナユタはユビユと合流し、再びルガルバンダと戦うことを決意する。そして、ナユタはナタラーヤ聖仙を、ユビユはヴィカルナ聖仙を訪ね、それぞれ新たな神器を授かる。

ナユタらは、覇権主義のルガルバンダを倒すために旗上げし、ルガルバンダ帝国への批判勢力を取り組みつつ勢力を広げ、最後のナツチェルの野での決戦でルガルバンダに勝利する。

こうして再び平和な宇宙を取り戻されるが、神々が清新の心を失い、欲望に基づいて動くようになった世界にナユタは馴染むことができず、ルガルバンダを倒した3年後、失望して森に帰る。

(2017年2月25日掲載 / 最新改訂:2024年5月11日)